



1. 令和8年播種用麦類種子の確保状況について

(1) 小麦

小麦については、収穫期の降雨が多く、収穫の遅れが一部で見られましたが、各品種ともに全量合格種子で計画数量を確保しました。「さとのそら」については、注文数量の増加が見込まれたため種子の買増しを行い、必要数量を確保しました。

(2) 六条大麦

六条大麦については、連作障害や湿害等により減収した産地もあり、「カシマゴール」については計画数量未達となりました。「カシマムギ」に

ついては、全量合格種子で計画数量を確保しました。

(3) 二条大麦

二条大麦「ミカモゴールドン」については、倒伏や収穫の遅れが一部で見られましたが、全量合格種子で計画数量を確保しました。

(4) 裸麦

裸麦「キラリモチ」については、外観品質および発芽率を満たした一般生産物を種子に転用して確保しました。

令和8年播種用麦類種子確保状況

品 種		委託数量 (kg)	買増数量 (kg)	合計 (kg)	確保数量 (kg)			
					合格	準	転用	合計
小 麦	さとのそら	265,000	5,000	270,000	270,060	0	0	270,060
	きぬの波	30,300	0	30,300	30,300	0	0	30,300
	ゆめかおり	24,300	0	24,300	24,300	0	0	24,300
六条大麦	カシマムギ	18,000	0	18,000	19,250	0	0	19,250
	カシマゴール	43,000	0	43,000	42,450	0	0	42,450
二条大麦	ミカモゴールドン	57,000	0	57,000	57,000	0	0	57,000
裸 麦	キラリモチ	0	0	0	0	0	14,100	14,100
合 計		437,600	5,000	442,600	443,360	0	14,100	457,460



小麦「さとのそら」の採種圃場



二条大麦「ミカモゴールドン」の採種圃場

も く じ

1. 令和8年播種用麦類種子の確保状況について 1
2. 令和8年産麦類をふり返って～気象の影響を中心に～ 2
3. 麦茶用六条大麦の新品種「カシマホープ」について 4
4. 今こそ見直したい「土づくり」
～「土づくり応援企画」と「秋肥特別キャンペーン」実施中～ 6
5. がんばる種子生産者！（水郷つくば農業協同組合種子生産部会） 7
6. 穀物改良部ニュース 8
 - (1) 令和8年度穀物改良事業推進会議・研修会を開催
 - (2) 水陸稲種子現地検討会を開催
 - (3) 令和8年度茨城県稲作・そば共進会の参加者募集

2. 令和8年産麦類をふり返って

～気象の影響を中心に～

茨城県農業総合センター 主任専門技術指導員 寺門 ゆかり

近年、温暖化をはじめとする気候変動が農作物に与える影響が大きな問題となっています。夏の気温上昇に注目しがちですが、秋に播種し冬を越えて初夏に収穫を迎える「冬作物」の麦類でも気候変動の影響は大きく、作柄が不安定になりがちです。

そこで、令和8年産麦類の気象経過と収量品質への影響について振り返るとともに、安定生産のための栽培技術について再確認しておきましょう。

1 気象の経過（龍ヶ崎市アメダスデータより、平年値は直近5年の平均値とした）

【平均気温（図1）】

播種～12月第3半旬までは平年差-1.3℃と低めに推移し、その後ほぼ平年並みとなったものの、1月第5半旬～2月第4半旬は平年差-1.5℃と低めに推移しました。分げつ期から出穂期頃に当たる2月第5半旬～4月第3半旬は、平年差+1.6℃と高めに推移しました（※3月第3半旬に最低気温が氷点下となる低温あり）。

登熟期間に当たる4月第4半旬～6月いっぱい、平年差-0.3℃と平年並み～やや低めに推移しました。

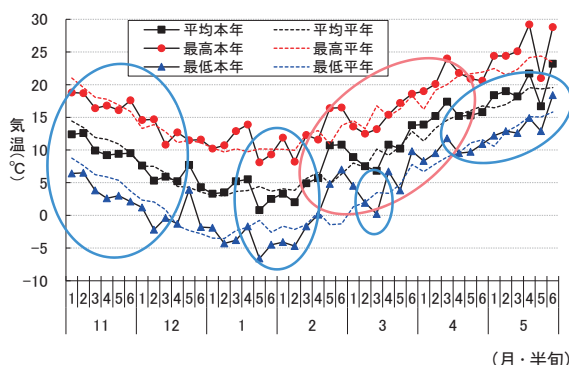


図1 半旬別最高・最低・平均気温の推移
注）水戸地方気象台龍ヶ崎観測所アメダスデータより作成

【降水量（図2）】

播種～2月第3半旬までは、平年比49%と平年よりかなり少なく推移しました（1月の降水量は1mm）。

2月第4半旬以降は、定期的にまとまった降雨があったものの晴天日も多かったため、積算での降水量は平年比104%とほぼ平年並みとなりました（※4/27・5/1に暴風雨、6/3・6/27に台風の接近による風雨害が一部であり）。

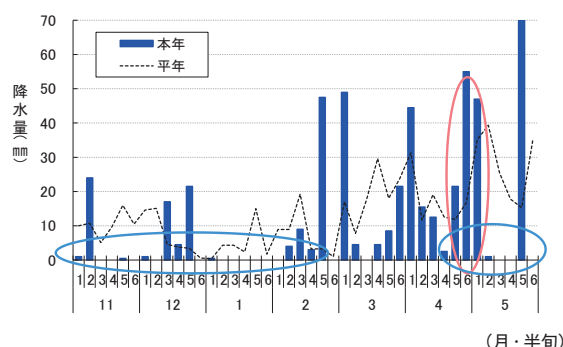


図2 半旬別降水量の推移
注）水戸地方気象台龍ヶ崎観測所アメダスデータより作成

【気象要因による生育状況等への影響】

- ・播種直後から2月頃までは、低温と干ばつの影響による出芽及び初期生育の遅れが見られました。また、雑草の出芽も遅れたことで土壌処理剤の効果が例年より低減し、春先の茎葉処理剤散布が遅れたほ場ではカラスムギ等の雑草害が目立ちました。
- ・3月中旬の低温により、出穂直前の大麦の一部で幼穂凍死を確認。それに伴って、遅れ穂や不稔の発生も一部で見られました。
- ・県病害虫防除所により、4/7に大麦、4/10に小麦の「赤かび病の適期防除」に関する病害虫速報を発行しました。なお、近年連続して発行していた追加防除に関する速報はありませんでした。
- ・複数回の強風雨により一部ほ場で倒伏や収穫作業の遅延等がみられましたが、影響は局所的となりました。

2 生育および収量・品質（農業研究所水田利用研究室調査 麦類生育診断（表1）より）

【生育】出穂期は小麦が早く大麦が概ね平年並みで、成熟期は全麦種で平年より早くなりました。全麦種とも稈長がやや長く、穂数は平年並み～やや少なくなりました（大麦の遅れ穂多発品種は除く）。全麦種とも倒伏がなく千粒重も重かったため、整粒歩合は平年並み～やや高くなりました。

【収量】全麦種とも充実が良く整粒が増加したため、多収～かなり多収となりました。

播種直後からの低温と乾燥によって、全麦種で初期生育は遅く少なめに推移しました。2月下旬頃からは定期的な高温やまとまった降雨によって生育が徐々に追いつき、幼穂形成期以降は生育が一気に進みました（3月中旬の低温により、大麦の一部で幼穂凍死とそれに伴う遅れ穂が多発）。出穂期は小麦で平年差-2～-3日、大麦で+1～-2日と平年並みからやや早く、成熟期は全麦種で平年差-4～-1日と早くなりました。

全麦種ともに穂数は平年比82～98%と平年並み～やや少なく（遅れ穂が多発したカシマゴール・キラリモチは除く）、登熟期間中のやや低温かつ多照条件によって千粒重が101～106%と重くなったため、整粒歩合が平年差-1～+14%と高くなりました。その結果、全麦種ともに平年比115～136%とかなりの多収傾向となりました。なお、容積重は平年並みからやや重く、タンパクは小麦が多収によってやや低くなったものの大麦は平年並みからやや高くなりました。

表1 輪換畑における麦類の生育及び収量・品質（龍ヶ崎市、水田利用研究室）

播種期 (月・日)	麦種	品種名	出穂期			成熟期			登熟日数			倒伏程度			稈長		
			本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年比
			(月・日)	(月・日)	(日)	(月・日)	(月・日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(0-5)	(0-5)	(0-5)	(cm)	(cm)	(%)
11.14	小麦	さとのそら	4.6	4.9	-3	5.26	5.27	-1	49	48	1	0.0	0.0	0.0	88	86	102
	六条大麦	カシマゴール	3.31	4.2	-2	5.10	5.14	-4	39	41	-2	0.0	2.5	-2.5	82	81	101
		カシマゴール	3.30	3.30	0	5.12	5.13	-1	42	43	-1	0.0	1.1	-1.1	86	80	108
	二条大麦	ミカモゴールデン	3.31	3.30	1	5.9	5.11	-2	38	41	-3	0.0	1.3	-1.3	95	87	109
	裸麦	キラリモチ	4.1	3.31	1	5.13	5.15	-2	41	44	-3	0.0	0.0	0.0	82	77	106
11.20	小麦	さとのそら	4.9	4.11	-2	5.28	5.29	-1	48	47	1	0.0	0.0	0.0	85	82	104

播種期 (月・日)	麦種	品種名	穂長			穂数			有効茎歩合			一穂整粒数			㎡当たり整粒数		
			本年値	平年値	平年比	本年値	平年値	平年比	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年比	本年値	平年値	平年比
			(cm)	(cm)	(%)	(本/㎡)	(本/㎡)	(%)	(%)	(%)	(%)	(粒)	(粒)	(%)	(万粒)	(万粒)	(%)
11.14	小麦	さとのそら	9.2	8.4	110	617	751	82	35	34	1	32.3	22.2	145	1.99	1.70	117
	六条大麦	カシマゴール	3.8	4.0	95	533	618	86	34	38	-4	34.7	25.5	136	1.85	1.40	132
		カシマゴール	3.8	3.9	97	567	544	104	35	32	3	32.8	26.6	123	1.86	1.50	124
	二条大麦	ミカモゴールデン	4.8	4.9	98	703	735	96	34	35	-1	14.7	11.0	134	1.04	0.80	130
	裸麦	キラリモチ	6.3	6.4	98	803	671	120	45	34	11	14.0	15.5	90	1.13	0.97	116
11.20	小麦	さとのそら	9.2	8.6	107	707	725	98	42	40	2	25.3	22.3	113	1.74	1.60	109

播種期 (月・日)	麦種	品種名	整粒重			整粒歩合			千粒重			容積重			タンパク質含有率		
			本年値	平年値	平年比	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年比	本年値	平年値	平年比	本年値	平年値	平年差
			(kg/a)	(kg/a)	(%)	(%)	(%)	(%)	(g)	(g)	(%)	(g/l)	(g/l)	(%)	(%)	(%)	(%)
11.14	小麦	さとのそら	78.4	62.4	126	98	94	4	39.4	37.7	105	841	827	102	8.5	8.8	-0.3
	六条大麦	カシマゴール	61.2	44.9	136	90	76	14	33.1	31.4	105	726	698	104	8.3	7.9	0.4
		カシマゴール	60.8	46.9	130	91	80	11	32.7	31.0	105	731	712	103	8.0	7.2	0.8
	二条大麦	ミカモゴールデン	45.1	33.2	136	85	76	9	43.5	42.3	103	758	728	104	7.5	7.0	0.5
	裸麦	キラリモチ	43.1	37.1	116	89	90	-1	38.3	38.1	101	850	845	101	8.3	8.3	0.0
11.20	小麦	さとのそら	70.2	61.1	115	98	94	4	40.3	38.1	106	845	827	102	8.5	8.9	-0.4

【耕種概要】

1) 圃場来歴: 転換3年目(前作大豆)

2) 播種期: 平年の播種期は11月10日、20日

3) 播種量: (小麦・六条)0.8kg/a、(二条・裸麦)1.0kg/a

4) 播種様式: 条間30cm、ドリル播き(シーダーテープによる)

5) 基肥: (小麦)N-P₂O₅-K₂O=1.0-1.0-1.0kg/a、(六条・二条・裸麦)N-P₂O₅-K₂O=0.8-0.8-0.8kg/a

6) 麦踏み: 2025年12月23日、2026年1月15日実施(11/14播種)。2026年1月15日、22日実施(11/20播種)。

7) 茎立期追肥: 11/14播種小麦は2026年3月11日、11/20播種小麦は3月12日、六条は3月9日に窒素0.4kg/10a施用。裸麦は3月9日に窒素0.2kg/10a施用。二条は未施用。

【注釈】

1) 登熟日数は出穂期の翌日から成熟期までの日数、倒伏程度は0(無)～5(甚)の6段階とした。

2) 一穂整粒数・㎡当たり整粒数は、穂数・整粒重・千粒重から求めた計算値。

3) サンプル調整は小麦:2.3mm、六条:2.2mm、二条:2.5mm、裸麦:2.2mmのグレーダーによる。

4) タンパク質含有率は近赤外分析(インフラテック1241型)により、水分13.5%換算値とした。

【平年値】

2020年～2024年播種の5ヵ年平均値、キラリモチは2024年に大幅な播種遅れがあったため2019年～2023年播種の5ヵ年平均値とした。

3 今後の安定生産に向けて～基本技術の励行が重要～

麦類生産において、生育期間全体を通じての高温化や春先の降霜および台風等の不安定な気象条件は、今後高頻度で起こり得る「生産環境の変化」として捉え、栽培管理技術を不変のものとせずその年の気象条件に合わせて微調整する必要があります。まだまだ知見は足りませんが、安定した収量品質を得るために重要となるのは、播種直後から出穂期までの「バランスのとれた生育量の制御」です。湿害や播き遅れ等による生育不足は論外ですが、生育初期からの過剰な生育も、倒伏や高温下で登熟期間を迎えることによる「子実の充実不足＝くず麦の多発」のリスクを高めることとなります。

麦類生産者の1戸当たり作付面積の拡大に伴い、全ほ場での適正な栽培管理の徹底は難しくなっていますが、①排水対策と土壌診断や品質分析結果に基づく適正施肥、②適切な播種（播種時期、播種量、播種深度）、③効果的な雑草および病害虫の防除、④適期収穫と適正な乾燥調製の実施といった、基本技術の励行を心がけましょう。

3. 麦茶用六条大麦の新品種「カシマホープ」について

茨城県農業総合センター農業研究所 作物研究室 石川 春香

1. 背景

本県は麦類作付面積が全国9位と麦の主産県であり、本県産の麦茶用大麦は全国的にも実需から高い評価を得ています。本県の麦茶用六条大麦の作付面積は「カシマゴール」が8割、「カシマムギ」が2割となっています。主力品種「カシマゴール」はオオムギ縞萎縮病に強い品種として導入されましたが、近年はオオムギ萎縮病による収量低下や細麦の発生による調整歩留りの低下が問題となっています。そのため、「カシマゴール」に替わる新品種の導入が求められていました。

今回は、オオムギ縞萎縮病およびオオムギ萎縮病に強く、多収で栽培性に優れる「カシマホープ」の栽培特性等を紹介します。

2. 「カシマホープ」の来歴

「カシマホープ」は、農研機構作物研究部門（茨城県つくば市）において、オオムギ縞萎縮病及びオオムギ萎縮病に強く、耐倒伏性及び整粒歩合に優れる「関系b564」を1回親、「カシマゴール」を反復親とした戻し交配から育成された品種です。育成地が調査した病害抵抗性等は表1の通りで、オオムギ縞萎縮病、オオムギ萎縮病に極強です（農研機構プレスリリース、https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nics/176157.html）。

表1 特性検定結果

品種名	播性	病害抵抗性				耐倒伏性	稈折損性
		オオムギ縞萎縮病			オオムギ 萎縮病		
		I 型	II 型	III 型			
カシマホープ	I	極強	極強	極強	極強	強	難
カシマゴール	I	極強	極強	極強	やや弱	やや強	中

※農研機構作物研調査成績による。

病害抵抗性及び耐倒伏性は、極強、強、やや強、中、やや弱、弱、極弱の7段階評価。

稈折損性は、極難、難、やや難、中、やや易、易、極易の7段階評価。

稈折損性は成熟期～成熟10日後の稈の折損程度により判定。

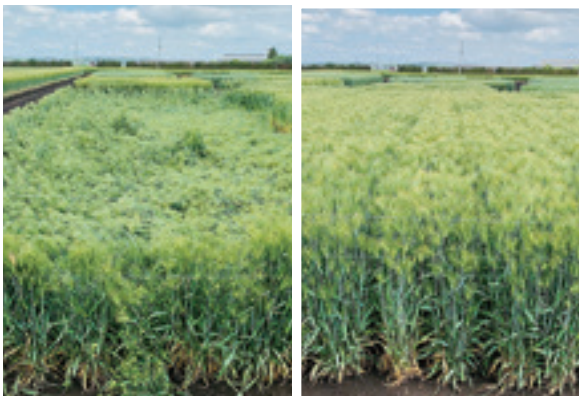


写真1 登熟期の草姿（2024年水戸標肥）
左：「カシマゴール」、右：「カシマホープ」

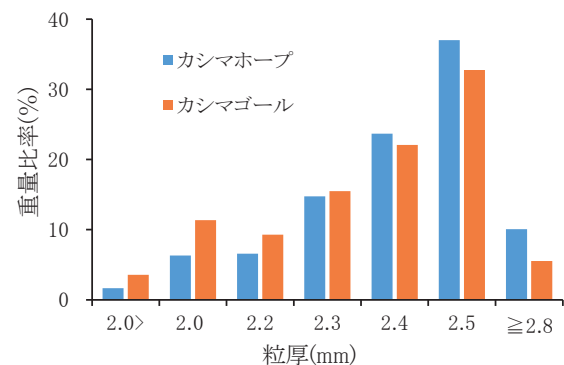


図1 粒厚分布（2026年水戸標肥）
粗子実100gを振とう式段篩で5分間振とうして測定。

3. 「カシマホープ」の特性

茨城県内で栽培特性等を評価した結果、「カシマホープ」は「カシマゴール」と比較して以下の特性を示しました。

- ①出穂期は同等～1日早く、成熟期は1日早い～1日遅いです（表2）。
- ②稈長は同等～長いですが、稈が折れにくく、収穫時に倒れにくい（表1、2、写真1）。
- ③整粒歩合（2.2mm以上の粒の重量の割合）は同等～高く、収量は105～178%で多収です（図1、表2）。
- ④麦茶を製造する加工会社での加工適性試験の結果、麦茶加工適性は同等との評価が得られまし

た（データ略）。また、農業研究所での麦茶官能評価試験では、色調の評価が高く、総合評価は同等でした（表3）。

4. 今後の普及スケジュール

「カシマホープ」は令和8年に本県の奨励品種に指定されました。今後、「カシマゴール」に替えて県内全域を対象として普及推進していく予定です。現在、種子の生産を行っており、令和9年播種から一般栽培が開始される予定です。

また、農業研究所では令和8年から5年間の計画で栽培試験を実施しており、「カシマホープ」の高品質多収栽培技術の開発を進めています。

表2 「カシマホープ」の生育・収量・品質

試験場所	施肥水準	播種年度	品種名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏程度	収量 (kg/a)	同左対標準比 (%)	整粒歩合 (%)	千粒重 (g)	タンパク質含有率 (%)	検査等級
水戸 (畑)	標肥 (追肥あり)	R1	カシマホープ	4/3	5/25	86.7	4.4	574	0.2	63.2	105	94	30.5	11.4	1～2
		～R4	カシマゴール	4/4	5/24	88.6	4.2	678	1.0	60.4		89	28.2	11.1	1～2
	標肥 (追肥なし)	R5	カシマホープ	4/9	5/26	89.1	4.5	692	2.1	33.0	141	88	29.4	11.4	1～2
		～R7	カシマゴール	4/10	5/26	86.5	4.2	815	2.9	23.4		85	27.9	11.4	2～外
	多肥	R5	カシマホープ	4/9	5/26	88.1	4.3	691	2.3	31.4	178	87	29.1	11.7	2
		～R7	カシマゴール	4/10	5/27	86.9	4.1	863	3.3	17.6		80	27.1	11.7	2～外
	晩播	R5	カシマホープ	4/18	6/5	69.7	4.5	552	0.2	38.2	142	96	32.7	12.7	1～外
		～R7	カシマゴール	4/18	6/4	71.3	4.1	681	1.2	27.0		96	31.6	12.7	2
	龍ヶ崎 (転換畑)	R5	カシマホープ	3/27	5/10	83.3	3.7	554	1.0	53.7	122	83	30.4	8.8	1～2
		～R7	カシマゴール	3/27	5/11	84.4	3.7	628	1.3	43.9		67	27.3	8.5	2～外
筑西 (転換畑)	標肥	R5	カシマホープ	-	-	87.2	4.1	602	0.5	27.8	174	94	30.4	9.3	1～2
		～R6	カシマゴール	-	-	71.8	3.5	678	1.5	16.0		91	27.4	10.1	2

※倒伏程度は0（無）～5（甚）の6段階評価。

容積重、千粒重、タンパク質含有率はとうみ選によるサンプル測定値。収量は2.2mm篩目調製後測定。

収量、容積重、千粒重は水分12.5%換算値。

タンパク質含有率はF社近赤外線多成分分析機Infratec1241による（水分13.5%換算値）

土性：表層腐植質黒ボク土（水戸）、中粒質普通灰色低地土（龍ヶ崎）、表層腐植質多湿黒ボク土（筑西）

【耕種概要】

播種期：11月4～14日（水戸）、11月9～14日（龍ヶ崎）、11月13～20日（筑西）

播種量：0.8kg/a 播種様式：条間30cmドリル播

表3 麦茶官能評価試験（農業研究所）

播種年度	品種名	香味	色調	コク味	総合評価
R1～R6 (水戸産)	カシマホープ	-0.5	0.0	-0.5	-0.4
	カシマゴール	-0.4	-0.5	-0.6	-0.5
	カシマムギ	0.0	0.0	0.0	0.0

※R1～R4、R6年播種の評価の平均値。 香味：麦茶液の香り。 色調：麦茶液の色。

コク味：焙煎麦で抽出した麦茶液の甘み、渋み、水っぽさなど味の良し悪し。

カシマムギを標準(0)として極端に劣る(-5)～極端に優れる(+5)の11段階で評価した。

パネリストは農業研究所職員13～19名。篩目2.2mmで調製した原麦を焙煎した。

4. 今こそ見直したい「土づくり」 ～「土づくり応援企画」＆「秋肥特別キャンペーン」実施中～

全農茨城県本部 生産資材部 肥料農薬課

JAグループ茨城では、今年も秋肥期間中（6～10月）限定で、土づくりに有効な「土づくり資材」を通常よりお得な価格で提供する「土づくり応援企画」を実施しております。

近年、生産資材価格の高騰や経営規模拡大に伴う作業の効率化などにより、「土づくり」が後回しになる事例が見られます。例えば水田では、地力低下による収量減少や、高温による品質低下が問題となっており、これらは堆肥や土壌改良資材の投入量減少や、コスト低減策としてリン酸や加里成分の少ない肥料を継続的に使用していることが要因の一つと考えられます。

土づくりは作物が健全に育つための基盤であり、夏場の高温対策としても効果的です。稲作では、出穂後約20日間の日平均気温が26～27℃を超えると、米粒の一部が白く濁る白未熟粒が発生します。今年は昨年より気温が低く推移していますが、近年の高温傾向を踏まえた対策が必要です。ケイ酸含量が低い水田では、出穂期40日前から出穂期前までのケイ酸質資材の施用により、白未熟粒の発生軽減が期待されます。

ケイ酸は倒伏や高温障害を軽減します。さらに、光合成を促進させる働きがあり、収量や品質が向上します。また、リン酸には分げつ促進や根張り向上の効果があり、どちらも作物に欠かせない養分です。しかし、全農茨城県本部が実施した広域土壌分析によると、県内の水田約360か所のうち、ケイ酸は約50%、リン酸は約36%で適正値を下回りました。適切な土づくりは栽培条件によって異なりますが、地力向上には、土壌診断などにより地力の現状を把握し、適切な資材を選定することが有効です。「土づくり応援企画」は、水稻に限らず園芸作物向けの資材も対象です*。ぜひこの機会に土づくりに取り組みましょう。

また、昨年ご好評いただいた「秋肥特別キャンペーン」も同時開催しています。生産資材費が高止まりしている中、農業者の皆様への還元の一環として、JAで選定した肥料をご購入のお客様を対象に、購入数量に応じて景品*を進呈いたします。ぜひ本キャンペーンをご利用ください。

※取扱銘柄等については、お近くのJAまでお問合せください。

今年も開催中!!

秋肥期間限定の特別企画!!

ぜひこの機会にJAで肥料をお買い求めください。

土づくり応援企画

夏場の高温対策や作物の品質低下、収量減少にお悩みではありませんか？

その課題解決は、まず「土づくり」から。

期間限定の**特別価格**にてご提供！この機会をお見逃しなく！

◆対象銘柄

※値引価格および取扱銘柄については各JAまでお問合せください。

1 酵素でくさ〜る

2 稲コンボーザー

3 稲サボ

4 BBどかいーね

5 良作シリカ

6 フラ分解キング

7 ネバリン

8 畑のカルシウム

9 ストロングバランス

秋肥 特別キャンペーン

資材費の高騰が続くなか、農業者の皆さまへ向けて、特別キャンペーンを開催します！

JAが選定した**3銘柄50袋購入**につきもらってうれしい！県産肉や農業資材を**“もれなく”**プレゼントします！

商品の一例

※対象銘柄については各JAまでお問い合わせください。
※購入数量によって選べる商品は異なります。

お問い合わせはお近くのJAまで

5. がんばる種子生産者！



水郷つくば農業協同組合 種子生産部会
塚本 佑介さん

◆ 経営規模

・ 水稻	コシヒカリ 他	8.9ha
	一番星（種子）	1.4ha

◆ 主な保有機械

・ 田植機	1台
・ トラクター	2台
・ コンバイン	1台
・ 乾燥機	2台
・ 籾摺り機	1台

◆ 品質向上の取組

J A・普及センターの皆様に適時アドバイスを頂きながら部会員皆で情報交換を行い、病害虫の防除、異株・漏生稲の除去を行っています。

◆ 栽培管理

昨今の猛暑が続くなか、省力化を図りながら品質の良い種子を生産するため、ドローンや無人ヘリを活用した防除を行っています。

また、土壌診断による適切な施肥を行うとともに、J A・普及センターによる随時の圃場確認を受けております。

◆ 今後の抱負

今後も品質の良い種子を安定生産出来るようにJ Aや普及センター、農林振興公社等の関係機関にご協力を頂き、部会員全員で優良種子の生産に努めていこうと思います。



乾燥機



トラクター



コンバイン

6. 穀物改良部ニュース

(1) 令和8年度穀物改良事業推進会議・研修会を開催

6月26日(金)、水戸市見川町の(一社)茨城県トラック協会において、茨城県農林振興公社「令和8年度穀物改良事業推進会議・研修会」が、農業協同組合及び市町村穀物改良協会、県関係機関・団体等の関係者が出席し、開催されました。

会議では、当公社より令和8年度における穀物改良事業計画の概要及び種子更新計画、第70回稲作共進会・第37回そば共進会開催の説明、県産地振興課より令和8年度茨城県畑作振興対策、県内の種子産地の現状及び今後の対応について説明を行いました。

研修会では、関東農政局茨城県拠点地方参事官

室・主任農政業務管理官の望月弘樹氏を講師に迎え、「米の需給等の状況について」と題して、国の施策や主食米等の需給状況について図表等を用いて説明して頂きました。



(2) 水陸稲種子現地検討会を開催

8月6日(木)、茨城県採種部会協議会(会長：谷田部貞雄氏)主催の令和8年度水陸稲種子現地検討会が、JAやさと採種部会の協力の下、県内水陸稲採種関係者29名が参加し、開催されました。

会場の葦穂地区公民館では、協友アグリ株式会社の雨宮主任による水稻の漏生苗対策に有効な新剤の現地試験経過の報告と、茨城県農業総合セン

ターの坪井専門技術指導員による稲ばか苗病についての講習を受けました。

その後、JAやさと採種部会の谷田部貞雄氏が生産する「あきたこまち」の採種圃場を視察し、使用資材や薬剤、管理内容について説明を受けるとともに、栽培技術等について情報交換を行いました。また、協友アグリ株式会社つくば研究所では、除草剤に関する試験圃場を見学しました。



(3) 令和8年度茨城県稲作・そば共進会の参加者募集

令和8年度の「稲作共進会」、「そば共進会」の参加申込が始まります。

各共進会への参加方法等については、当公社(穀物改良部)ホームページ[<https://www.ibanourin.or.jp/kokumotsu/>]の開催要綱をご覧ください。穀物改良部(電話029-239-6300)へお問い合わせください。

多くの方の参加をお待ちしております。

〈参加申込期間〉

稲作共進会 : 10月1日～10月16日
そば共進会 : 9月1日～10月30日

〈ホームページ用QRコード〉

